

平成 25 年度 傾斜的研究費（全学分）研究環・ミニ研究環 研究報告書

【研究費区分】：①研究環

【研究代表者所属】：都市教養学部人文・社会系

【研究代表者氏名】：西山雄二

【研究代表者氏名フリガナ】：ニシヤマユウジ

【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

首都大学東京・人文科学研究科、岡本賢吾、教授
 首都大学東京・人文科学研究科、高桑史子、教授
 首都大学東京・人文科学研究科、綾部真雄、教授
 首都大学東京・人文科学研究科、左古輝人、准教授
 首都大学東京・人文科学研究科、山下祐介、准教授
 首都大学東京・人文科学研究科、野元弘幸、准教授
 首都大学東京・人文科学研究科、荒木典子、准教授
 首都大学東京・人文科学研究科、山本潤、准教授
 首都大学東京・人文科学研究科、赤塚 若樹、教授
 東京大学・大学院総合文化研究科、小林康夫、教授
 九州産業大学・国際文化学部、藤田尚志、講師

【研究環組織名】：カタストロフィと人文学——東日本大震災以後の人間・自然・文明

【研究環 HP（*本研究環組織の HP を作成している場合は、その URL を記入してください。）】

<http://www.comp.tmu.ac.jp/nishiyama/Catastrophie/pg155.html>

【研究環の活動概要と、ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】（600～800 字程度で記入。図（組織図含）、グラフ等の使用も可。）

本研究では、人文学の知見に基づいてカタストロフィの表象、解釈、思想が比較検討された。破局的状況は、人間と自然、人間と文明、人間と歴史といった諸限界が露わになり、それらの概念や現実が根本的に再考される歴史的契機であるが、本研究では、主に人文学の文献や理論、実地調査にもとづいて、カタストロフィと人間の関係を根本的に問うた。その成果は、研究分担者全員で制作した論集『カタストロフィと人文学』（勁草書房）として 2014 年夏に刊行予定である。

本研究の経費支給は申請額の 60% という厳しいものだったにも関わらず、他の資金（科研費など）を上手く活用して、予想以上の充実した国際的な活動を展開することができた。2 年間の活動を通じて、フランス、香港、ブルガリアの研究者との連携を実現させ、さらに研究拠点としての拡充が図られた。2013 年 3 月にパリ日本文化会館、6 月にスウェーデン国立科学アカデミー、9 月にブルガリア・ソフィア大学、12 月に香港中文大学、2014 年 4 月にフランス・リヨン第三大学にて、本研究の主導権によって「カタストロフィ」に関連する催事を成功させた意義は非常に大きい。

とりわけ、フランスの国際哲学コレージュとリヨン第三大学とは中・長期的な人文学研究ネットワークの形成することができた。また、国内の研究者とも適宜連携し、首都大学東京を拠点とする今後の展開への基盤が形成された。本学におけるカタストロフィ研究が広く認知され、国際的な共同研究に向けた道筋を開くと同時に、本学の人文社会系の国際的な競争力向上に大いに貢献したと言える。

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月を記入）】

- ・西山雄二、“The Philosophy of Catastrophe”, Joint Meeting between the Young Academies of Sweden and Japan, Royal Swedish Academy of Sciences (RSAS), 2013.6.13.
- ・西山雄二、招待講演「カタストロフィと人文学」、ブルガリア・ソフィア大学、2013年9月26日
- ・西山雄二、発表「人文学にもとづくカタストロフィの解釈・思考・表象」、一橋哲学社会思想学会シンポジウム、一橋大学、2013年12月7日
- ・西山雄二、発表「人文学にもとづくカタストロフィの思考と表象」、Workshop: Catastrophe and Philosophy、香港中文大学、2013年12月21日
- ・西山雄二、発表「フクシマ以後、打ち捨てられた大地を想像し、死者たちの声に耳を聞くこと」、国際シンポジウム「フクシマ—カタストロフィ以後の政治的なもの：エピステモロジー、哲学、政治」、フランス・リヨン第三大学、2014年4月3-4日
- ・高桑史子「スリランカ海村における人々の生活の再生と変容」日本建築学会建築計画委員会比較居住文化小委員会 2013年11月
- ・山下祐介・佐藤彰彦・山本薫子・高木竜輔「原発避難をめぐる社会調査と研究者の役割—社会学広域避難研究会富岡班による研究活動—」2013年5月11日地域社会学会大38回大会（立命館大学）
- ・佐藤彰彦・山下祐介・山本薫子・高木竜輔「原発避難者を取り巻く問題の構造(2)—タウンミーティングの結果から」2013年5月11日地域社会学会大38回大会（立命館大学）
- ・山下祐介「原発避難者対策の経緯と問題点～避難から3年目に入って～」企画セッション「福島第一原発事故災害の被害と復興を考える—原発避難者・被災者の生活再建と脱原発政策をいかに統合するか」2013年6月1日第47回環境社会学会大会（桃山学院大学）
- ・山下祐介「ボランティア・市民活動をめぐる阪神と東日本 福島第一原発事故・避難者支援を問い直すことから」東北社会学会第60回大会 課題報告 災害ボランティアの現状と課題（2013年7月20日東北大学）
- ・荒木典子「中国における災異の記録」、ワークショップ「カタストロフィと哲学」（香港中文大学）、12月21日。

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月を記入）】

- ・西山雄二編『カタストロフィと人文学』勁草書房、2014年夏刊行予定（入校済）
- ・西山雄二「新しい教養の行方」、『福音と世界』2013年5月号、31-36頁
- ・西山雄二【共訳】ジェローム・レーブル「原子力の建築／ポスト原子力の建築」、『人文学報』496号、3-41頁
- ・西山雄二【共訳】ジェローム・レーブル「駆け足—ジャック・デリダにおける脱構築と政治の速度」、『人文学報』496号、71-87頁
- ・西山雄二【共訳】アラン＝マルク・リュウ「フクシマ以後の思考」、『人文学報』496号、89-121頁
- ・高桑史子「スリランカにおける二つのカタストロフィと向き合う」、西山雄二編『カタストロフィと人文学』勁草書房、2014年夏刊行予定（入校済）
- ・高桑史子「スリランカにおけるインド洋津波災害からの復興—内戦終了後の生活再建—」高桑史子『大規模災害における環境変化と脆弱性克服に関する研究』（平成20年度～平成24年度科学研究費補助金

基盤研究 (A) 研究成果報告書、代表：林勲男、2013 年 7 月

- ・ Masao Ayabe, Seeking Covert Commonalities: Some Observations on Revitalization Movement of the Lisu in Northern Thailand, A Paper Presented at International Seminar ” Thai Studies Through East Wind ” (Chiang Mai, Thailand), 2013.
- ・ Masao Ayabe, Some Observation on Identity Transformation over Time: Perspectives from Twenty Five Years of Association with the Lisu People in Thailand, A Paper Presented at The Lisu Cultural Conference, Exchange, and Exhibitions from Thailand, Myanmar, China and India 2014.
- ・ 綾部真雄「安全保障とアイデンティティ—タイ北部山地民の国籍問題をめぐる 2 つのコンテキストから—」『アジア太平洋の安全保障と地域秩序の再構築—周辺からの視点— (仮)』(遠藤誠治編、有信堂)、(印刷中)
- ・ 綾部真雄「中空のスティグマーある先住民による災禍の乗り越え方—」『カタストロフィと人文学』西山雄二編、勁草書房、2014 年夏刊行予定 (入校済)
- ・ 左古輝人「世界恐慌の経済倫理」、西山雄二編『カタストロフィと人文学』勁草書房、2014 年夏刊行予定 (入校済)
- ・ 山下祐介・市村高志・佐藤彰彦『人間なき復興 原発避難と国民の「不理解」をめぐって』明石書店、2013 年 11 月
- ・ 山下祐介「人口過疎地域は消えてなくなるべきなのか? ~過疎高齢化・限界集落問題のゆくえと課題」、『月刊福祉』、2013 年 7 月、96 巻第 8 号、40—43 頁
- ・ 「限界集落における尊厳ある暮らし——「都市部との暮らしの循環」の視点から」『社会福祉研究』2014 年 4 月号、119 号、65—72 頁
- ・ 「「北のまほろば」論——司馬遼太郎を通じて津軽を考える」「津軽の中の吉田松陰」『津軽学』第 9 号、2014 年 3 月
- ・ 山下祐介「東日本大震災・福島第一原発事故における地域再生の課題と住民 コミュニティ災害への社会的考察」『被災自治体における住民の意思反映——東日本大震災の現地調査・多角的考察を通じて』日本都市センター、2014 年 3 月、91—116 頁
- ・ 野元弘幸「カタストロフィから総動員体制へ——「国土強靱化」路線の行方と教育」、西山雄二編『カタストロフィと人文学』勁草書房、2014 年夏刊行予定 (入校済)。
- ・ 日本社会教育学会 60 周年記念出版部会編『希望への社会教育—3・11 後社会のために』東洋館出版社、(共著：野元弘幸「アイヌ民族教育制度の確立と社会教育実践の課題 231-247 頁」、2013 年 10 月。
- ・ 野元弘幸「3・11 後の世界と私たちの学び—公民館での学習の意義を考える—」アゴラさがみはら編集委員会『アゴラ』N0.63、2013 年 1 月、56-59 頁。
- ・ 荒木典子「中国における災異の記録」、西山雄二編『カタストロフィと人文学』勁草書房、2014 年夏刊行予定 (入校済)。
- ・ 山本潤「破滅の神話——近代以降の『ニーベルンゲンの歌』受容とドイツ史」、西山雄二編『カタストロフィと人文学』勁草書房、2014 年夏刊行予定 (入校済)。
- ・ スタニスラフ・ウルヴェル編『チェコ・アニメーションの世界』赤塚若樹編訳、人文書院、2013 年
- ・ 赤塚若樹「カタストロフィのイメージーション——様式、遊戯、距離」、西山雄二編『カタストロフィと人文学』勁草書房、2014 年夏刊行予定 (入校済)。

【学術会議開催実績報告】

- ・2013年6月19日、首都大学東京（南大沢）、国際セミナー「フクシマ以後の思考」、アラン＝マルク・リュウ（リヨン第三大学・教授）、コメント：山下祐介、左古輝人、綾部真雄、参加対象者：教員・学生、一般市民、参加者数：30名
- ・2013年10月23日、首都大学東京（南大沢）、国際セミナー「核の建築／核以後の建築——カタストロフィにおける構築」、ジェローム・レーブル（国際哲学コレージュ）、参加対象者：教員・学生、一般市民、参加者数：20名
- ・2013年12月21日、香港中文大学新亞書院図書館、Workshop: Catastrophe and Philosophy, 登壇者＝西山雄二（首都大学東京）、木村朗子（津田塾大学）、田口卓臣（宇都宮大学）、荒木典子（首都大学東京）、佐藤嘉幸（筑波大学）、渡名喜庸哲（東洋大学）、デンニツァ・ガブラコヴァ（香港城市大学）、グレオン・コプフ（Luther College/東洋大学）、張政遠（香港中文大学）参加対象者：教員・学生、参加者数：15名
- ・2014年4月3-4日、フランス・リヨン第三大学、国際シンポジウム「フクシマ—カタストロフィ以後の政治的なもの：エピステモロジー、哲学、政治」、登壇者＝アラン＝マルク・リュウ（リヨン第三大学）、山脇直司（星槎大学）、小林傳司（大阪大学）、左古輝人（首都大学東京）、西山雄二（首都大学東京）、木村朗子（津田塾大学）、佐藤嘉幸（筑波大学）、的場昭弘（神奈川大学）、神里達博（大阪大学）参加対象者：教員・学生、参加者数：50名

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

- ・平成26年度 基盤研究(C)「啓蒙期から現代に至るカタストロフィの思想と表象に関する総合的研究」研究代表者：西山雄二 不採択
- ・平成26年度 基盤研究(C)「遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明」研究代表者：亀井大輔、分担者：西山雄二
- ・基盤研究（C）「過疎高齢海村・山村における村落解体阻止と脆弱性克服に関する社会人類学的研究」平成23年～25年、研究代表者：高桑史子
- ・平成26年度 基盤研究（C）「限界集落への世代論的アプローチによる2010年代問題の検証と対応課題の抽出」、研究代表者：山下祐介、採択
- ・平成26年度 基盤研究（B）「原発被災当事者のエンパワーメントのための地域社会教育システムに関する実践的研究」研究代表者：千葉悦子、分担者：野元弘幸
- ・若手研究（B）「メディアの転換と記憶の変容—中世英雄叙事文学を対象に—」、(24年度～26年度)、研究代表者：山本潤
- ・基盤研究（C）「ドイツ語圏における神話・伝説素材の作品化に見られる集合的記憶の諸相」、(25～27年度)、分担者：山本潤
- ・基盤研究（C）(2010～2013年度)「20世紀チェコの視覚芸術における文学的想像力のはたらきと意味」、研究代表者：赤塚若樹

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

とくになし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献, 生涯学習支援・普及啓発, 国際貢献・国際交流等]

・野元弘幸、講演「あの3・11を忘れない! 一公民館で考える防災」相模原市立大野北公民館「大野北防災講座『その時、あなたはどのように動きますか?』」2014年3月22日

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

(工業所有権の名称, 発明者, 権利者, 工業所有権の種類・番号, 出願年月日, 取得年月日)

とくになし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名, 所属, 金額(円))

西山雄二、首都大学東京・人文科学研究科、2,382,000円